

3/11(金)

14時46分

地震発生

調剤室で軟膏棚の軟膏やBBローション容器が落下し破損。

製剤室の蒸留水製造装置破損。

DI室等の本が崩れ床に散乱。

停電 非常電源に切り替え(停電のためシステムダウン)

15時過ぎ

屋外へ避難命令

16時頃

降雪のため屋内へ移動(車イス、ストレッチャーの患者さんの移動を手伝う)

患者は中央病棟を避けた1階(建物倒壊の危険があるため)の救急病棟・南3病棟、リハビリに移動。

夜勤薬剤師、電車出勤途中で地震に遭遇、海岸線付近での被災だったため、津波からの避難で出勤できないと連絡あり。

17時頃

救急対応用薬品を避難場所に配置。システムダウン時用の紙処方せん配布。

18時半頃

電源復旧(システムは復旧せず)

19時頃

地震による中央病棟壁面のひび割れと安全を確認し、患者の病棟へ搬送指示あり。2階から8階まで患者一人ずつ階段を使い病棟へ搬送。(全職員にて対応)

21時半頃

病棟搬送終了。システム復旧しないため救急に備え4人夜勤体制を取る。

3/12(土)

救急救命受診患者、入院患者対応。

8時半~17時

9人体制で勤務。

12時

電子カルテ全面復旧

17時~22時

2人体制で勤務。避難所へ回る共立病院災害救助4チーム分の薬品準備。ヨウ化カリウム丸50mg 800錠、ヨウ化カリウム25g十分量の在庫確認。

22時~

1人体制で勤務。

3/13(日)

救急救命受診患者、入院患者対応。

8時半~17時

6人体制で勤務。

17時~18時

2人体制で勤務。

18時~

1人体制で勤務。

3/14(月)

外来通常通り診療。院外処方1ヶ月分。初診は1週間分。

病棟ケモ(FOLFOX)1件、外来ゾメタ2件、外来リツキサン2件実施される。

3/15(火)

報道で外来は重症の救急患者に限るとしているが、受診した希望する場合は、薬が無くなるまで診療するとの決定。

院外処方が困難な状況のため、院内処方となる。

薬の処方期間は、3日間とする。

午後、市内の一部地域30km屋内退避となり、自主避難する職員も有り、従事ス

スタッフが減少傾向。

原子力発電所の事故の影響等により、診療の継続が困難なため、入院患者の搬送手段と搬送先の確保について、市長とともに福島県知事に要請する。

入院中で希望する患者は退院へ。退院処方多数調剤。

3/16 (水)

朝早くから、院外処方箋やお薬手帳による調剤を求めて、薬局窓口に患者が殺到。病院入り口で対応した事務員も「薬がない」と間違った情報で対応したこともあり混乱。その後、院内処方継続、医師処方による調剤継続との会議での決定を受けて混乱収束。外来受診患者を最優先に調剤開始。

午後、糖尿病患者に対応するため、マルチ調剤薬局各店からインスリンが届く。システム関係メンテ要員が少数のため、障害があった場合は全システムが停止の危険あり。

3/17 (木)

ヨウ化カリウム丸を、40歳以下の職員に配布。

13時までは外来は院内処方調剤（3日分）。門前のマルチ調剤薬局が業務再開し院外処方開始（3日分）。

ここまで共立病院においては3日分調剤、および問屋の供給体制は非常時ながらも電話発注のみで十分機能し現在も不足なし。しかし、避難所で避難している方々（外出できない方々）のお薬は不足している模様。避難所へはいわき薬剤師会が活動行っていると聞かすが、現状調査のみで薬の配布までには至っていない様子あり。共立病院薬剤師24名中、津波で家屋損壊した薬剤師3名、原発事故により避難指示がでた薬剤師2名。

3/18 (金)

原発事故や津波で避難されている方々が、大勢、薬を求めて来院。南相馬や双葉郡、いわき沿岸部に住まわれていた方々です。

薬剤師4名、病院の正面玄関でドラッグトリアージ実施。持参薬鑑別を行い、医師の処方支援に当たる。

院外処方でしたが想定以上に患者が押し寄せ、門前の調剤薬局では4～5時間待ちという事態になり、午後から共立病院の薬剤師2名が応援に入りました。

以上

東北大学病院薬剤部 副薬剤部長

久道 周彦
